

(仮称) 平和資料館のあり方を考える懇話会
について

平成29年6月

北九州市

目 次

（仮称）平和資料館のあり方について

- 1 （仮称）平和資料館のコンセプトについて …… 1 p
 - （1）建設の趣旨
 - （2）コンセプト
 - （3）（仮称）平和資料館の機能
- 2 （仮称）平和資料館の基本的な展示の考え方 …… 2 p
- 3 （仮称）平和資料館の主な展示内容 …… 2 p
 - （1）北九州市と戦争との関わりや悲惨な戦争の事実を伝える
 - （2）戦争による市民の労苦を伝える
- 4 （仮称）平和資料館の主な展示方法 …… 2 p
- 5 （仮称）平和資料館の建設場所 …… 3 p

資料編

- 1 目的 …… 4 p
- 2 委員名簿 …… 5 p
- 3 会議内容 …… 6～7 p
- 4 議事要旨 …… 8～14 p
- 5 要綱 …… 15～16 p

(仮称) 平和資料館のあり方について

1 （仮称）平和資料館のコンセプトについて

（1）建設の趣旨

北九州市域の歴史を振り返ると、明治・大正期には工業都市・港湾都市として著しい発展を遂げ、日本の近代化を支えた時代や、昭和期には小倉陸軍造兵廠が開設され、軍都としての役割を担っていた時代があった。

このような時代背景のもと、現在の北九州市には B-29 爆撃機による本土初空襲を受け、小倉が長崎に投下された原子爆弾の第一投下目標となり、実際に原子爆弾を搭載した爆撃機が飛行するなど固有の歴史を有している。

北九州市民はこのような歴史を重く受け止め、後世に戦争の悲惨さや平和の大切さを語り継ぎ、平和な世界の実現のために歩みを続けていく必要がある。

そこで、北九州市と戦争との関わりの歴史を紐解き、特に第二次世界大戦で多くの命が失われた悲劇や市民の労苦などを後世に伝え、二度と戦争の惨禍を繰り返さないよう市民一人ひとりが戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さを考える機会を提供するため「（仮称）平和資料館」を建設する。

（2）コンセプト

- ①北九州市と戦争との関わりの歴史や市民の戦争体験などを保存・継承していく施設。
- ②戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さについて考える機会を提供する施設。

（3）（仮称）平和資料館の機能

- ①展示機能
市民の寄贈品や米国国立公文書館の所蔵資料など、収集資料を活用した展示を行い、北九州市と戦争との関わりや悲惨な戦争に関する歴史の事実を伝えていく。
- ②保存機能
収集資料を適切な環境と方法で保存し、後世に伝えていく。
- ③学習機能
来館者が戦争や平和についてより広く・深く学習する機会を提供する。
- ④交流機能
戦争を知る世代と知らない世代の交流、原爆に関わる長崎市と北九州市の交流などを通して、多くの人びとが戦争や平和について共に考えるための機会を提供する。
- ⑤研究機能
資料収集や展示、平和学習などの充実のための専門的調査・研究機能を確保する。

2 (仮称) 平和資料館の展示の基本的な考え

戦争に伴う悲惨な体験や生活を知っている方々が年々減少していく中で、(仮称) 平和資料館は“戦争を知らない世代”が館運営の実務を担い、“戦争を知らない世代”に戦争と平和を伝えていく施設となる。そのため、(仮称) 平和資料館の展示は来館者の心に残る形で「事実」を伝えるということを重視する。

3 (仮称) 平和資料館の主な展示内容

(1) 北九州市と戦争との関わりや悲惨な戦争の事実を伝える。

市民から寄せられた戦争や空襲に関する品々から米国国立公文書館の所蔵資料まで、様々な資料をもとに、北九州市と戦争との関わりや悲惨な戦争に関する事実を伝える。

特に北九州市域が本土初の本格的空襲を受けたことや、小倉が長崎に投下され原子爆弾の第一投下目標になり、原子爆弾を搭載した爆撃機が飛行したことを紹介する。

合わせて、長崎原爆資料館などが所蔵する原爆関係資料を借り受け、原爆被害の実態についても紹介する。

さらに、北九州市域が「軍都」として展開したことや、国際情勢の変遷などの歴史的背景についても解説する。

(2) 戦争による市民の労苦を伝える。

戦中・戦後の市民の暮らしがわかる資料を活用し、当時の市民生活の労苦を明らかにする。特に来館する子どもたちが身近に理解できるように、当時の子どもたちの生活がわかる資料を活用する。

4 (仮称) 平和資料館の主な展示方法

時代背景や市民生活における意味などを含めてわかりやすく解説することを重視し、展示のストーリーを構築・明示し、実物資料を効果的な方法で展示する。

合わせて、写真資料・映像資料などを活用し、最新の音響や映像技術などを駆使して、五感を通じて体験・体感できる展示を行う。

さらに、戦争体験や戦後の労苦などについて、体験者の生の声を伝える工夫を行う。

5 (仮称) 平和資料館の建設場所

(仮称) 平和資料館は戦争の悲惨さや平和の大切さを考える機会を提供する施設であるとともに、当時の人びとの労苦に思いを馳せ、犠牲となった方々を追悼する施設としての意味を持つため、閑静な場所に建設されることが望ましい。

また多くの人々が来館できるように、市の中心部に位置し、交通の利便性が高い場所が望ましい。

さらに小倉陸軍造兵廠跡地で、長崎に投下された原子爆弾の第一投下目標地であったという歴史的背景や、中央図書館および文学館との連携を重視し、地域の歴史について考える機会を拡充していくため、小倉の中心部にある勝山公園内に建設する。

具体的な場所については、勝山公園の中でも閑静な雰囲気を持していること、市民の公園内での活動の妨げにならず、公園のにぎわい機能への影響の少ない「中央図書館横の駐車場奥の雑木林辺り」が相応しい。

建設場所予定地（勝山公園内）

